

ワークショップレポート

～歴史的建造物エリアの未来を考えよう！～

歴史

VOL.6

館林市では館林駅東側のまちの将来像を話し合い、まちづくりの方向性を示す未来ビジョンの策定を目指す取り組みを進めています。

本取組みの一環で、2025年2月13日(木)にワークショップを開催し、館林市でまちづくりに関する事業・活動をしている方々約20名の皆さんにご参加いただきました。前半は歴史建造物エリアの歴史について市職員（文化振興課）よりお話いただきました。後半は市民センターでワークショップ形式で外池商店や旧二業見番組合事務所だけでなく、歴史的建造物エリアについてやエリアの魅力について意見交換しました。このエリアのビジョンを参加者の皆さんで検討しました。

【ワークショップの目的】

外池商店・旧二業見番組合事務所がある歴史的建造物エリアの歴史的背景の理解、エリアの可能性や魅力の深堀り

当日の様子



ワークショップで出たアイデア・意見

歴史的建造物エリア

<歴史建造物エリアの歴史について>

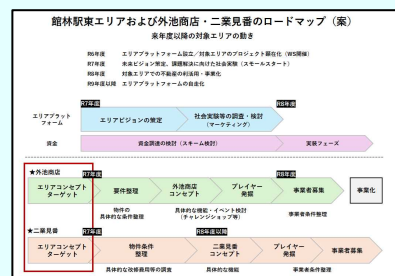
「地域のDNA(歴史文化)を活かしたまちづくり」

- ◆明治期の鉄道開通を起点とする近代産業の発展とまちの近代化。地域の豊かな自然・芸術と融合した、「東京近郊」の都市文化が発展し、まちに賑わいを生んできた。
- ◆躰躰ヶ岡や茂林寺を中心に一大行楽地として成長。「里沼文化」を活かした「うどん」や「麦落雁」に代表される名産品が創出され、おもてなしに花を添えた。
- ◆館林市にしかないことを、事業に活かすからこそ生まれる独自性。独自性は歴史文化の重層性であり、それこそが地域のDNA
- ◆最盛期には150人いたといわれる芸妓たちがつつじが岡や旧秋元別邸で催された実業家たちの遊興に花を添えた。

<アイデアや意見／感想>

- ・歴史的な背景を知ることができてよかった
- ・今後のロードマップを示してくれてイメージが湧いた
- ・以前あって今ないもの
- ⇒「駄菓子屋」「映画館」「銭湯」「本屋」「文房具屋」等
- ・旧二業見番は文化／産業／農業について発信できる施設にしたい
- ・外池商店は駄菓子屋や子供が集まる場をつくりたい
- ・既存のお店だけでなく、新しい人たちが集める場にしていきたい
- ・なかなかまちなかに行く機会が少ない
- ・つつじが岡公園から人を呼び込みたい

当日の資料について



「歴史文化」という地域特性を活かしたまちづくりを推進するため、今後取り組むべきまちの方向性を示した未来ビジョンを皆様と一緒に作り上げていく予定です。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

お問合せはこちら

TEL:0276-47-5150 (直通)
MAIL :toshikei@city.tatebayashi.gunma.jp

主催：館林市館林市役所都市計画課都市再生推進係
企画協力：株式会社エンジョイワークス